

創立四十周年



賢く 優しく 逞しく

9月号・令和2年8月26日発行

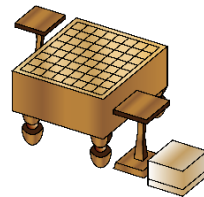
本校URL <http://musashimurayama.ed.jp/mmced5c/> 武蔵村山市立第五中学校

探究する心

校長 榎戸 千代子

今年は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、いつもと違った短い夏休みとなりました。しかし、例年通り各学年では補習教室や三者面談等が行われました。特に三者面談では、お子様について保護者の皆様と大変有意義な話ことができました。お忙しい中御来校いただき、ありがとうございました。また、部活動は、新型コロナウイルス感染症防止のため、3年生にとっては最後の公式大会が中止となる中、ブロックや市内での救済大会を実施した部もありました。子供たちは、与えられた環境の中でよく頑張りました。

ところで、9月はまだ残暑厳しい時期ですが、暦の上では「秋」。9月22日（火）の「秋分の日」を境に、昼と夜の長さが逆転し、暑さも徐々に和らいてきます。「暑さ寒さも彼岸まで」といわれるゆえんです。コロナ禍ではありますが、「実りの秋」、「収穫の秋」です。様々なことに挑戦し、自分の可能性を広げる「実りある学期」にしてほしいと思います。



先日、高校生棋士の藤井聡太さんが、18歳1か月の史上最年少で「棋聖」に次ぐ「王位」を奪取し、「二冠」を達成したというニュースが流れました。1か月ほど前の7月に「棋聖」戦を制し最年少記録を更新したばかりなので驚きです。7月の棋聖戦で初タイトルを取った時の新聞記事では、五番勝負を2勝1敗で迎えた第4局で、前半は対戦相手が有利とみられていましたが、中盤以降に逆転し、相手が気付かなかった手を次々に繰り出して勝負を決めたとあります。5歳で将棋を始め、地元の子供将棋教室に通い始めると、1年で16階級も進級したそうです。14歳2か月の史上最年少でプロ入りし、歴代最多29連勝など、これまでも数々の記録を塗り替えています。

藤井さんは、棋聖戦から一夜明けた記者会見で、自分の成長点として「中盤の力」をあげています。中盤は「読み」と「形勢判断」の両方が問われると思い、普段から将棋ソフトなどを活用して、従来の発想でない指し方を常に追究して自分の課題を改善してきたそうです。インタビューの中で、「将棋に頂上はない」と言い、今後の心構えとして「探究（物事の深い意味や本質などを探り、見極めようとする）」と書いた色紙を見せ、「探究心をもって盤上に向かっていきたい」と決意を述べました。自分の課題を分析し、目標に向かって努力する姿は立派です。「探究心」をもつことは学習の場においてもとても大切なことです。文部科学省が定めた来年から始まる新学習指導要領では、「なぜ」、「どうして」から発した疑問を自ら問題解決していく力が求められています。本校でも生徒が「探究心」をもち、主体的に思考・判断できる力を身に付けられるように、引き続き授業の工夫・改善に取り組み、「深い学び」につながる学習の充実を図ってまいります。

さて、夏季休業中に御不便をおかけしておりましたが、念願の特別教室及び体育館の空調工事は順調に進み、9月末にはエアコンが使用できそうです。今までは特別教室が暑すぎて夏場の授業を控えていた理科室での実験や家庭科室での調理なども今後可能となり、大変うれしく思います。

ところで、広島、長崎では75回目の原爆忌を迎えました。松井一実広島市長は平和宣言で、新型コロナウイルスを「人類の脅威」と位置付け、市民社会は「連携」して脅威に立ち向かわねばならないと訴えました。「命の大切さ」、「世界平和」においては、原爆も新型コロナウイルスも共通の願いです。そんな中、ウイルスの感染が拡大し、インターネット上で感染者やその家族を特定して中傷や差別的な発言を繰り返す「感染者狩り」とよばれる行為が広まっていると聞きます。とても悲しいことです。どんなに注意していても罹ってしまうことは誰にでもあります。罹った人が悪いわけではありません。学校では「いじめ」につながらないように、生徒に指導してまいります。